

年頭所感



—— 国境の長いトンネルを抜けると雪国であった —— “なんでだろう～”

(社)日本技術士会理事 北海道支部長
技術士（応用理学／総合技術監理部門）

大 島 紀 房

明けましておめでとうございます。昨年の新語・流行語大賞の一つに、〈なんでだろう～〉（テツ and トモ）が選ばれた。私もこの一年間、何度〈なんでだろう～〉と首をひねったことか。答えはうっすらと解っているのだが。「さっぱり進展しない北朝鮮の拉致問題」「湯水のように増えつづける金融機関への公的資金」「自衛隊のイラク派遣のもたつき」「生活苦自殺が8,000人」「京都議定書ロシア拒否表明」「無駄な公共事業は行わない」……きりが無い。

とりわけ私達が従事する科学技術分野は多かれ少なかれ公共事業に係りをもつ。道路、河川、港湾などの整備が進んだことにより、どれだけの恩恵を受けてきたことだろうか。1999年の政府閣議の中でも、科学技術が国民の生活を豊かにし、社会経済の発展に大きく寄与したことが明記されている。ところが、その公共事業がすっかり悪者扱いされている。「無駄な高速道路」「儲けの出ない道路は造らない」……。〈なんでだろう～〉

「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。……」で始まる、川端康成氏の小説。一つの山脈を越えると別世界なのが日本である。それぞれの地域が東西南北に延びる背梁山脈、海峡で分断され、世界的にも稀な地理、地勢の中で世界の先進国と成りえたのは、これまでに施された社会資本整備、公共事業の成果であったはずである。背梁山脈を貫いて高速道路が地方、地域に行き渡る。その道路を活用して地域と地域が競争する。地方と中央が強く結ばれる。食料基地、観光、新産業の育成、その結果として経済効果が後々現れてくる。東北新幹線八戸駅

開業で、弘前桜祭り、十和田湖への観光客が急増している。これが社会資本整備である。

年頭から愚痴はこれ位にして、明るく勇気付けられる話題も豊富でした。「三浦雄一郎さん70歳でエベレスト登頂」（これぞクラーク精神!!）「エア・ドウ黒字に転換」（よく頑張った!!）「日本ハム札幌ドームへ、新庄も」（経済波及効果200億円?）「APECエンジニア資格の国際相互承認、オーストラリアと」（ようやくスタート）……。

とりわけ私達技術士にとっては昨年10月、オーストラリアとの間でAPECエンジニア資格の国際相互承認の枠組みが調印されたことはうれしい話題です。取りあえず当面の技術分野は、機械、電気、化学分野でスタートする。国際競争、国際貢献の始まりと考えます。

今年は8年振りに全国大会が北海道で開かれます。9月15日、テーマは「社会貢献」—技術士は何かできるか、何をなすべきか—です。北海道ではようやく地域貢献の成果が出始めてきました。昨年の北東3支部の講演「寿都町の地域再生」など地域産業への係り、自治体への防災支援、教育分野への講師、公的機関への委員派遣など、続々つづいています。

また、科学技術、技術士会に係る情報をインターネットによるe-ラーニングなど情報提供の充実を行い地方の方々に配信できるシステムづくりに取りかかる準備を進めております。全国大会に出席できない方にも大会の講演、シンポジウムの内容を伝え、自らの資質向上と人材育成に役立てていただきたい、と考えております。